

## 高瀬康正氏まとめ

### 上下水道、災害の時の問題

いろいろご質問も受けて、ちょっと私は感じてますのは、上水道にしても下水道にしても、災害のときに、最大の問題なんですよ。

能登半島地震が起きまして、亡くなった方が約 600 人ですよ。200 数十人が被災関連死です。だから、地震によって建物が倒壊したり、あるいはいろんな亡くなったという方は仕方がないと言わないけど、そのときに命を長らえてたのに、関連死がどんどん増えてるんですよ。それが水だけの責任ではないと思いますが、とにかくあそこの場合には、現在のまだ上水道が全部いってないんですよ。上水道が長期にわたって止まっちゃったと。そのことによってお風呂に入れない。あらゆることに困るわけですよ。

そういう精神的な疲労というのは特に高齢者の場合に、やっぱり大きな要因になって、関連してお亡くなりになるという例が、多いのではないかなと僕は類推するんですけどね。だから、上水道や下水も当然上水道が止まった下水も使えないわけだから、だからそのことによる問題ですね。これ災害のときに一番大きく現れるわけですよ。

だから災害は自然災害を防ぐことができないけれども、たとえ災害が起こっても、必ず水が確保できるようにするっていうことは、これはもう行政の責任の問題であって、日ごろから、そういうことに気をつけてですね、やることが大切じゃないかなというふうに僕は思ってるんです。

能登にも 3 回ぐらい行きましたけれども、やっぱりそのことが一番大変なんですよ。

上水道がなぜそのなかなか通らないんだっていうと、本管までは通ったけれども、この家の中にこういう管渠が通らないとかね、いろんな業者がいないというような問題もあって、水っていうのは、もう命に関わる問題なんで、これは本当に大切なものであるということのを再認識したということをちょっとご報告させていただきます。